

2015年3月期第2四半期決算の概要

東レ株式会社
2014年11月6日

目次

I. 2015年3月期第2四半期決算の概要

2015年3月期第2四半期連結損益概要	(P3)
営業外収支	(P4)
特別損益	(P5)
資産・負債・純資産、フリー・キャッシュ・フロー	(P6)
設備投資額・減価償却費・研究開発費	(P7)
セグメント別売上高・営業利益	(P8)
セグメント別業績	(P9-16)
営業利益増減要因分析(第2四半期累計期間)	(P17)
主要子会社収益状況(第2四半期累計期間)	(P18)
セグメント別営業利益 1Qvs2Q比較	(P19)

II. 2015年3月期連結業績見通し

2015年3月期連結業績見通し	(P21)
セグメント別業績見通し	(P22)
セグメント別営業利益の前回見通しとの差異	(P23)
設備投資額・減価償却費・研究開発費見通し	(P24)

I . 2015年3月期第2四半期決算の概要

2015年3月期第2四半期連結損益概要

億円

	14年3月期 第2四半期 (7~9月)			15年3月期 第2四半期 (7~9月)			増減	14年3月期 第2四半期累計 (4~9月)			15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)			増減
売上高	4,510	4,994	+484 (+10.7%)	8,538	9,480	+942 (+11.0%)								
売上原価	3,627	4,015	+388 (+10.7%)	6,886	7,623	+737 (+10.7%)								
売上総利益	883	978	+95 (+10.8%)	1,651	1,857	+205 (+12.4%)								
(売上高総利益率)	19.6%	19.6%	+0.0 ポイント	19.3%	19.6%	+0.2 ポイント								
販売費及び一般管理費	620	680	+60 (+9.6%)	1,208	1,343	+135 (+11.2%)								
(売上高販管費比率)	13.8%	13.6%	-0.1 ポイント	14.2%	14.2%	+0.0 ポイント								
営業利益	263	298	+35 (+13.5%)	443	513	+70 (+15.9%)								
(売上高営業利益率)	5.8%	6.0%	+0.1 ポイント	5.2%	5.4%	+0.2 ポイント								
営業外収支	3	43	+40	22	52	+29								
経常利益	265	341	+75 (+28.4%)	465	565	+100 (+21.4%)								
特別損益	▲ 25	▲ 14	+11	▲ 27	▲ 21	+6								
税前利益	240	326	+87 (+36.1%)	438	544	+106 (+24.2%)								
四半期純利益	161	266	+104 (+64.8%)	294	413	+119 (+40.5%)								

	(14/3 2Q)	→	(15/3 2Q)	(14/3 2Q累計)	→	(15/3 2Q累計)
為替レート <円/US\$> 期中平均	99.0	→	103.9	98.9	→	103.0
期末	97.8	→	109.5			
<円/ユーロ> 期中平均	131.1	→	137.8	130.0	→	138.9
期末	131.9	→	138.9			

(注) 3月期決算会社は7~9月の業績、12月期決算会社は4~6月の業績を連結

営業外収支

億円

	14年3月期 第2四半期 (7~9月)	15年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減	14年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減
営業外収益	35	80	+45	87	125	+38
受取利息及び配当金	5	7	+2	20	25	+4
持分法による投資利益	16	63	+47	38	84	+46
雑収入	14	10	-4	29	16	-12
営業外費用	▲ 32	▲ 38	-5	▲ 65	▲ 73	-8
支払利息	▲ 13	▲ 14	-1	▲ 26	▲ 29	-3
雑損失	▲ 19	▲ 23	-4	▲ 39	▲ 44	-5
営業外収支	3	43	+40	22	52	+29
金融収支	▲ 8	▲ 7	+1	▲ 6	▲ 4	+1

注) 収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

特別損益

億円

	14年3月期 第2四半期 (7~9月)	15年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減	14年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減
特別利益	67	2	-66	72	2	-70
有形固定資産売却益	0	2	+2	2	2	+0
受取保険金	67	-	-67	69	-	-69
その他	0	-	-0	1	0	-1
特別損失	▲ 93	▲ 16	+77	▲ 99	▲ 23	+76
有形固定資産処分損	▲ 10	▲ 14	-4	▲ 16	▲ 19	-3
減損損失	▲ 82	-	+82	▲ 82	-	+82
その他	▲ 1	▲ 2	-1	▲ 1	▲ 4	-3
ネット特別損益	▲ 25	▲ 14	+11	▲ 27	▲ 21	+6

注) 収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

資産・負債・純資産、フリー・キャッシュ・フロー

	14年3月末	14年9月末	増減	億円
資産合計	21,197	21,955	+759	
流動資産	9,204	9,770	+566	
有形固定資産	7,812	7,874	+61	
無形固定資産	1,001	950	-51	
投資その他	3,180	3,361	+181	

	14年3月末	14年9月末	増減
負債合計	11,751	12,570	+820
流動負債	5,966	5,880	-85
固定負債	5,785	6,690	+905
純資産合計	9,446	9,385	-61
有利子負債残高	6,542	7,464	+923
D/Eレシオ	0.76	0.88	+0.11

<フリー・キャッシュ・フローの状況>

	14年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減	億円
営業活動	229	43	-186	
投資活動	▲536	▲706	-170	
フリー・キャッシュ・フロー	▲307	▲663	-357	

設備投資額・減価償却費・研究開発費

億円

	14年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減	特記事項
設備投資額	465	546	+81	東レ: 146、連結子会社: 400
減価償却費 ー)	374	375	+2	東レ: 117、連結子会社: 259
振替・除却等	198	▲ 109	-307	
有形固定資産増減	289	61	-228	
研究開発費	275	288	+13	

主な設備投資:

東レ

CFA(Toray Carbon Fibers America, Inc.)

CFE(Toray Carbon Fibers Europe S.A.)

炭素繊維生産設備

TAK (Toray Advanced Materials Korea Inc.): PPS(ポリフェニレンサルファイド)樹脂生産設備

セグメント別売上高・営業利益

億円

	売上高			営業利益		
	14年3月期 第2四半期 (7~9月)	15年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減	14年3月期 第2四半期 (7~9月)	15年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減
繊維	1,819	2,069	+250 (+13.7%)	139	122	-16 (-11.8%)
プラスチック・ケミカル	1,146	1,257	+111 (+9.7%)	47	60	+13 (+28.2%)
情報通信材料・機器	644	608	-37 (-5.7%)	63	54	-10 (-15.2%)
炭素繊維複合材料	277	388	+111 (+40.1%)	45	72	+27 (+58.9%)
環境・エンジニアリング	443	491	+48 (+10.9%)	4	23	+19 (+480.1%)
ライセンス	143	143	-1 (-0.5%)	12	12	+0 (+2.5%)
その他	37	38	+1 (+2.4%)	5	5	-1 (-12.6%)
計	4,510	4,994	+484 (+10.7%)	316	349	+33 (+10.3%)
調整額				▲ 53	▲ 51	+3
連結	4,510	4,994	+484 (+10.7%)	263	298	+35 (+13.5%)

	売上高			営業利益		
	14年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減	14年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	15年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減
繊維	3,351	3,862	+511 (+15.2%)	242	228	-14 (-5.9%)
プラスチック・ケミカル	2,280	2,462	+182 (+8.0%)	90	117	+27 (+30.0%)
情報通信材料・機器	1,220	1,218	-1 (-0.1%)	108	103	-5 (-4.7%)
炭素繊維複合材料	521	766	+245 (+47.1%)	71	118	+47 (+66.3%)
環境・エンジニアリング	831	834	+3 (+0.4%)	6	21	+14 (+221.7%)
ライセンス	266	265	-1 (-0.4%)	19	17	-2 (-8.5%)
その他	69	72	+3 (+4.5%)	7	7	+0 (+3.0%)
計	8,538	9,480	+942 (+11.0%)	543	611	+68 (+12.5%)
調整額				▲ 100	▲ 98	+3
連結	8,538	9,480	+942 (+11.0%)	443	513	+70 (+15.9%)

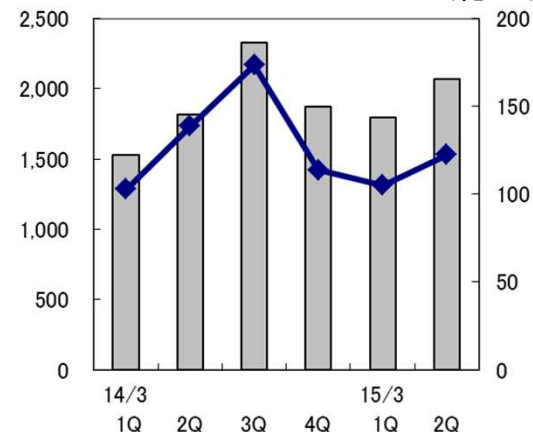
セグメント別業績(繊維)

単位: 億円

		2Q(7~9月)				2Q累計(4~9月)			
		14年 3月期	15年 3月期	増減		14年 3月期	15年 3月期	増減	
売上高	東レ	267	256	-12	(-4.4%)	545	525	-20	(-3.6%)
	国内	859	907	+49	(+5.7%)	1,567	1,638	+71	(+4.5%)
	海外	693	906	+213	(+30.7%)	1,238	1,698	+460	(+37.1%)
	計	1,819	2,069	+250	(+13.7%)	3,351	3,862	+511	(+15.2%)
営業利益	東レ	38	32	-6	(-15.3%)	85	66	-19	(-22.6%)
	国内	33	30	-3	(-9.7%)	51	46	-5	(-9.9%)
	海外	77	78	+1	(+1.0%)	122	142	+19	(+15.8%)
	修正	▲ 10	▲ 18	-8		▲ 17	▲ 26	-9	
	計	139	122	-16	(-11.8%)	242	228	-14	(-5.9%)

売上高
〈棒グラフ〉

営業利益
〈線グラフ〉
(億円)



2Q (7~9月)

国内の衣料用途は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動や天候不順の影響を受けて、弱含みで推移。産業用途は、自動車関連用途向けをはじめ堅調に推移。海外では、インドネシアで2013年6月に稼働を開始した衛生材料向けPPスパンボンドの出荷が拡大。その他子会社は、ほぼ前年並みで推移。なお、前期末に連結子会社化したToray Chemical Korea Inc.は、増収には寄与したが、連結子会社化に伴うのれん償却等の影響があった。

2Q累計 (4~9月)

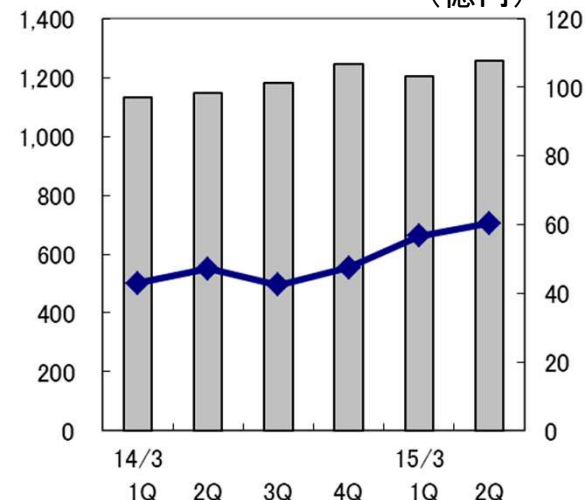
国内では、衣料用途は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動や天候不順の影響を受けて、出荷は弱含みで推移。産業用途は、自動車関連用途向けをはじめ堅調に推移。また、国内事業全般に円安要因を含む原燃料価格上昇の影響を受けた。海外では、欧州需要の低迷や中国内需の伸び悩みの影響を受けたが、東南アジアや中国のテキスタイル子会社が拡販と高付加価値品へのシフトを進め、また自動車関連用途向けや新興国における衛生材料向けの出荷が堅調に推移した。なお、前期末に連結子会社化したToray Chemical Korea Inc.は、増収には寄与したが、連結子会社化に伴うのれん償却等の影響があった。

セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)

単位: 億円

		2Q(7~9月)				2Q累計(4~9月)			
		14年 3月期	15年 3月期	増減		14年 3月期	15年 3月期	増減	
売上高	東レ	204	216	+13	(+6.3%)	410	434	+23	(+5.6%)
	国内	456	459	+4	(+0.8%)	892	896	+4	(+0.5%)
	海外	487	581	+94	(+19.4%)	978	1,132	+154	(+15.8%)
	計	1,146	1,257	+111	(+9.7%)	2,280	2,462	+182	(+8.0%)
営業利益	東レ	▲ 5	7	+13	(-)	▲ 4	13	+17	(-)
	国内	18	23	+5	(+29.8%)	40	45	+6	(+14.6%)
	海外	34	30	-4	(-12.5%)	53	60	+7	(+14.2%)
	修正	1	0	-0		2	▲ 1	-3	
	計	47	60	+13	(+28.2%)	90	117	+27	(+30.0%)

売上高
＜棒グラフ＞



営業利益
＜線グラフ＞
(億円)

2Q
(7~9月)

樹脂: 国内や中国で自動車関連用途向けを中心に出荷は堅調に推移。また、国内では、昨年来の原燃料価格高騰に対して価格転嫁を推進。

フィルム: 国内外で需要が総じて堅調に推移する中、一部で価格競争が継続したが、太陽電池バックシート用途向けや食品包装用途向けで出荷が堅調に推移。

2Q累計
(4~9月)

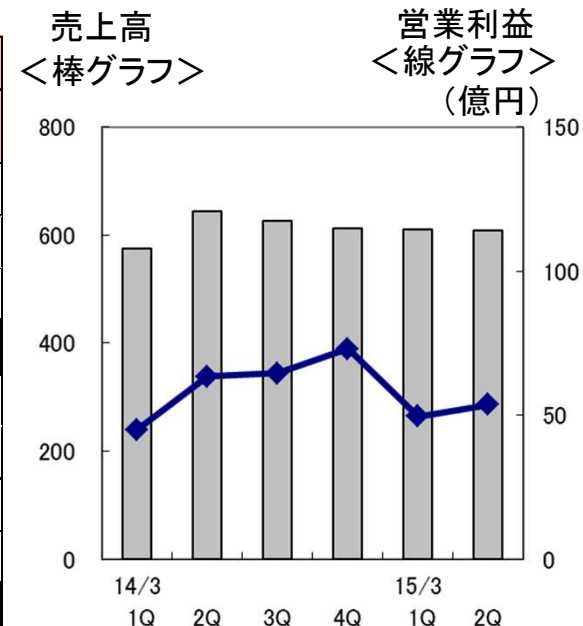
樹脂事業は、国内では、一部で原燃料価格上昇の影響を受けたものの、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の出荷への影響は限定的で、全体として堅調に推移。海外では米国や中国の子会社で自動車関連用途向けの出荷が拡大。

フィルム事業は、工業材料・包装材料の需要が国内外で総じて堅調に推移する中、一部で価格競争の影響を受けたものの、太陽電池バックシート用途向けや食品包装用途向けで出荷が拡大。

セグメント別業績(情報通信材料・機器)

単位: 億円

		2Q(7~9月)				2Q累計(4~9月)			
		14年 3月期	15年 3月期	増減		14年 3月期	15年 3月期	増減	
売上高	東レ	208	176	-32	(-15.5%)	402	353	-49	(-12.2%)
	国内	203	204	+1	(+0.4%)	363	406	+43	(+11.8%)
	海外	233	228	-5	(-2.2%)	455	460	+5	(+1.1%)
	計	644	608	-37	(-5.7%)	1,220	1,218	-1	(-0.1%)
営業利益	東レ	25	17	-8	(-30.8%)	50	37	-14	(-27.3%)
	国内	16	20	+3	(+19.9%)	22	35	+13	(+59.0%)
	海外	30	24	-5	(-18.0%)	52	47	-5	(-9.1%)
	修正	▲ 8	▲ 8	+0		▲ 16	▲ 16	+0	
	計	63	54	-10	(-15.2%)	108	103	-5	(-4.7%)



2Q
(7~9月)

大型液晶パネル関連材料は、パネルメーカーの生産が順調に推移していることや大画面化の進展に伴い、堅調に推移。スマートフォンやタブレット端末向けは電子部品関連材料を中心に堅調に推移したものの、一部で最終顧客の生産調整の影響を受けた。PDP関連材料の出荷は、主要顧客のPDP事業からの撤退の影響により減少。なお、全般的に価格競争が継続。

2Q累計
(4~9月)

大型液晶パネル向けでは、パネルメーカーの生産回復と大画面化の進展に伴い、フィルム・フィルム加工品等の関連材料の出荷が増加。スマートフォンやタブレット端末の関連材料は概ね堅調に推移したものの、一部で最終顧客の生産調整の影響を受けた。PDP関連材料の出荷は、主要顧客のPDP事業からの撤退の影響により減少。また、各材料とも引き続き価格競争の影響を受けた。

情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高推移】

単位：億円

	14年3月期第2四半期 (7～9月)		15年3月期第2四半期 (7～9月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
ディスプレイ材料	232	36%	209	34%	-10%
電子部品・半導体・回路材料	280	43%	267	44%	-5%
記録材料	78	12%	83	14%	+7%
機器他	55	8%	49	8%	-11%
計	644		608		-6%

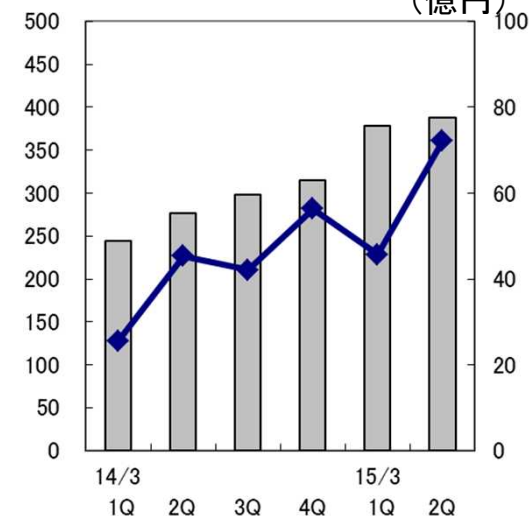
	14年3月期第2四半期 累計 (4～9月)		15年3月期第2四半期 累計 (4～9月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
ディスプレイ材料	442	36%	421	35%	-5%
電子部品・半導体・回路材料	538	44%	532	44%	-1%
記録材料	153	13%	159	13%	+4%
機器他	87	7%	106	9%	+23%
計	1,220		1,218		-0%

セグメント別業績(炭素繊維複合材料)

単位: 億円

		2Q(7~9月)				2Q累計(4~9月)			
		14年 3月期	15年 3月期	増減		14年 3月期	15年 3月期	増減	
売上高	東レ	221	237	+16	(+7.1%)	431	466	+35	(+8.1%)
	国内	129	149	+20	(+15.8%)	258	296	+39	(+15.0%)
	海外	222	337	+114	(+51.3%)	419	670	+251	(+59.9%)
	修正	▲ 295	▲ 334	-39		▲ 587	▲ 665	-79	
	計	277	388	+111	(+40.1%)	521	766	+245	(+47.1%)
営業利益	東レ	30	42	+12	(+38.4%)	41	80	+39	(+93.7%)
	国内	2	2	+0	(+10.8%)	4	4	-1	(-14.9%)
	海外	17	31	+14	(+80.4%)	31	50	+19	(+62.0%)
	修正	▲ 4	▲ 3	+1		▲ 6	▲ 16	-10	
	計	45	72	+27	(+58.9%)	71	118	+47	(+66.3%)

売上高
＜棒グラフ＞



本セグメントでは、グローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。

2Q (7~9月)

炭素繊維及び中間加工品(プリプレグ)の販売は、航空宇宙用途や圧縮天然ガスタンク等の環境・エネルギー関連用途を中心に好調に推移。成形品事業では、ノートブック型パソコン向け等が堅調に推移。また、スポーツ用途や産業用途で使用される汎用品の値戻しに取り組んだ。なお、前期末に連結子会社化したZoltek Companies, Inc.は、増収には寄与したが、連結子会社化に伴うのれん償却等の影響があった。

2Q累計 (4~9月)

航空機需要の拡大や圧縮天然ガスタンクなど環境・エネルギー関連需要の拡大に加え、欧州を中心に自動車関連の需要も好調に推移し、航空宇宙用途や一般産業用途向けに炭素繊維及び中間加工品(プリプレグ)の出荷が拡大。また、スポーツ用途や産業用途で使用される汎用品の値戻しに取り組んだ。なお、前期末に連結子会社化したZoltek Companies, Inc.は、増収には寄与したが、連結子会社化に伴うのれん償却等の影響があった。

炭素繊維複合材料セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高推移】

単位：億円

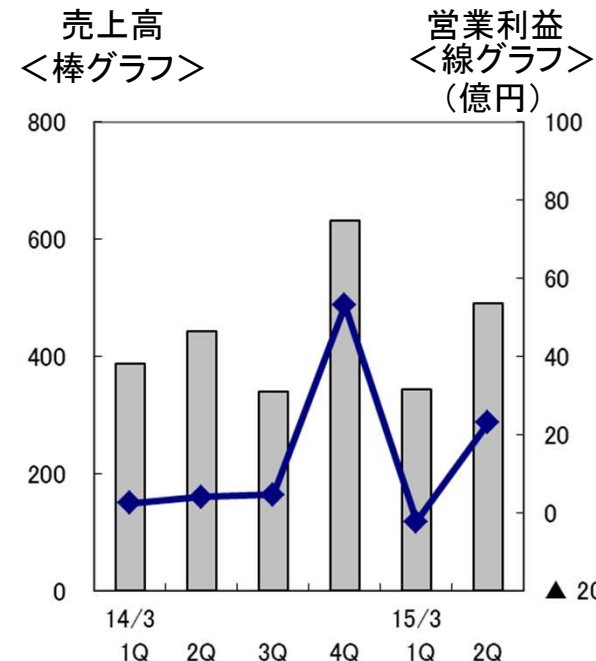
	14年3月期第2四半期 (7～9月)		15年3月期第2四半期 (7～9月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
航空宇宙	140	50%	194	50%	+39%
スポーツ	34	12%	41	10%	+18%
一般産業	103	37%	154	40%	+49%
計	277		388		+40%

	14年3月期第2四半期累計 (4～9月)		15年3月期第2四半期累計 (4～9月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
航空宇宙	252	48%	375	49%	+49%
スポーツ	66	13%	78	10%	+18%
一般産業	203	39%	314	41%	+54%
計	521		766		+47%

セグメント別業績(環境・エンジニアリング)

単位:億円

		2Q(7~9月)				2Q累計(4~9月)			
		14年 3月期	15年 3月期	増減		14年 3月期	15年 3月期	増減	
売上高	東レ	26	36	+10	(+37.2%)	47	60	+13	(+28.3%)
	国内	400	405	+5	(+1.1%)	753	681	-72	(-9.6%)
	海外	17	51	+34	(+202.4%)	31	94	+62	(+200.2%)
	計	443	491	+48	(+10.9%)	831	834	+3	(+0.4%)
営業利益	東レ	2	3	+2	(+100.0%)	2	2	+0	(+5.0%)
	国内	1	18	+17	(-)	▲ 1	14	+15	(-)
	海外	2	4	+3	(+182.1%)	2	7	+6	(+346.3%)
	修正	▲ 1	▲ 2	-2		4	▲ 2	-7	
	計	4	23	+19	(+480.1%)	6	21	+14	(+221.7%)



2Q
(7~9月)

水処理事業 : 逆浸透膜をはじめ各種水処理膜の拡販を推進することに加え、コストダウンの取り組みを徹底。また、前期末に連結子会社化したToray Chemical Korea Inc.が業績に貢献。

国内 : 建設子会社は、マンション完成案件が増加したことに加え、水処理エンジニアリング子会社は、主力の上下水道事業が好調に推移。

2Q累計
(4~9月)

水処理事業は、グローバルな需要が引き続き弱含みに推移する中、海水淡水化案件などで出荷が増加するとともに、前期末に連結子会社化したToray Chemical Korea Inc.が業績に貢献。

国内子会社は、エンジニアリング子会社の環境エネルギー関連案件や建設子会社のマンション完成案件が増加したことにより、堅調に推移。また、商事子会社の一部事業で取引形態変更により売上高が減少。

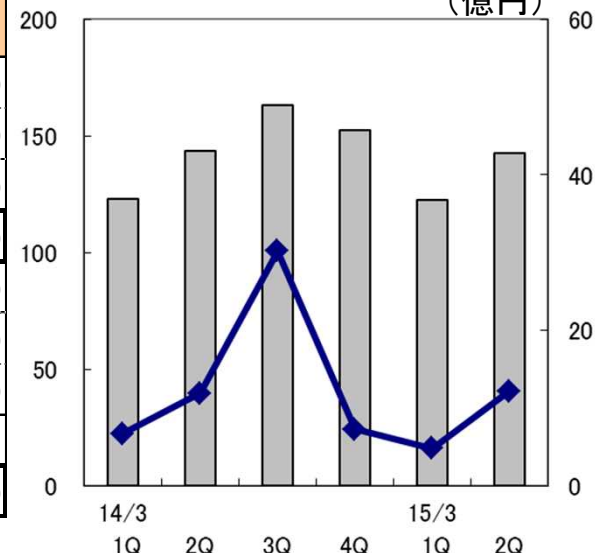
セグメント別業績(ライフサイエンス)

単位: 億円

		2Q(7~9月)				2Q累計(4~9月)			
		14年 3月期	15年 3月期	増減		14年 3月期	15年 3月期	増減	
売上高	東レ	35	37	+2	(+5.0%)	69	66	-4	(-5.1%)
	国内	98	93	-5	(-4.7%)	180	176	-4	(-2.4%)
	海外	11	13	+2	(+19.4%)	17	23	+7	(+40.8%)
	計	143	143	-1	(-0.5%)	266	265	-1	(-0.4%)
営業利益	東レ	3	14	+11	(+346.3%)	12	20	+7	(+56.7%)
	国内	7	2	-5	(-72.5%)	7	1	-6	(-87.9%)
	海外	▲0	▲1	-1	(-)	▲1	▲1	-1	(-)
	修正	2	▲3	-5		0	▲2	-2	
	計	12	12	+0	(+2.5%)	19	17	-2	(-8.5%)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



2Q
(7~9月)

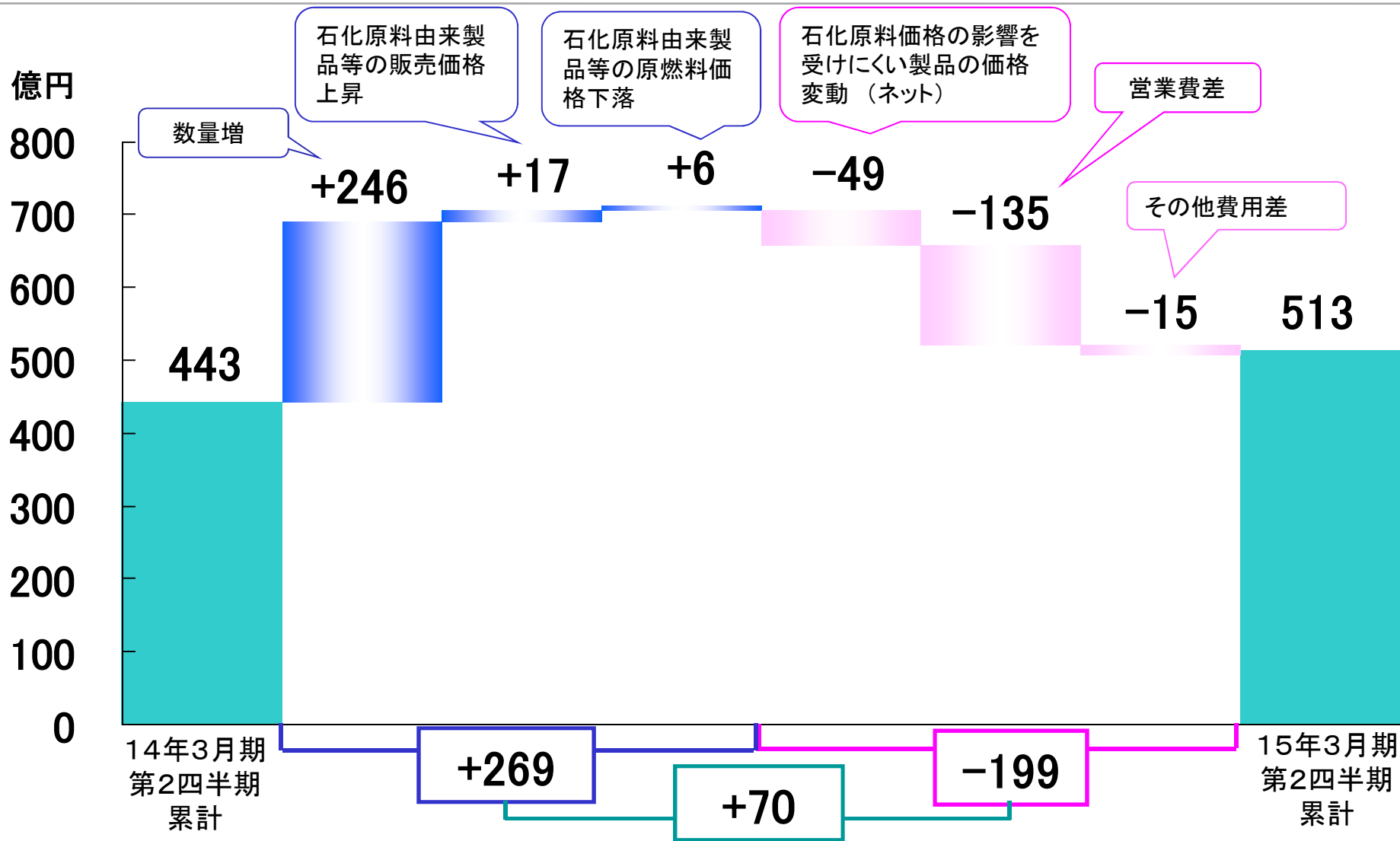
医薬品では、血液透析患者向けの経口そう痒症改善剤レミッチ[®]*の販売は堅調に推移したが、その他の医薬品は薬価改定と競合激化の影響を受けた。医療機器事業は、ダイアライザーの出荷が堅調に推移したが、透析装置の販売は低調に推移。

2Q累計
(4~9月)

医薬事業は、血液透析患者向けの経口そう痒症改善剤レミッチ[®]*が堅調に推移したが、天然型インターフェロンβ製剤フェロン[®]は競合の激化から出荷が低調に推移し、経口プロスタサイクリン誘導体制剤ドルナー[®]は、薬価改定と後発医薬品伸長の影響を受けた。医療機器事業は、ダイアライザーの出荷が堅調に推移。

* レミッチ[®]は鳥居薬品株式会社の登録商標です。

営業利益増減要因分析(第2四半期累計期間)



石化原料由来製品等とは、繊維、プラスチック・ケミカル、炭素繊維複合材料セグメントの合計値。

主要子会社収益状況(第2四半期累計期間)

		売上高			営業利益			億円
		14年3月期 第2四半期累計 実績	15年3月期 第2四半期累計 実績	増減	14年3月期 第2四半期累計 実績	15年3月期 第2四半期累計 実績	増減	
東レインターナショナル		2,535	2,583	+48	53	47	-6	
東レエンジニアリング		307	346	+39	▲7	4	+11	
東レ建設		215	260	+46	4	11	+7	
東レフィルム加工		213	240	+27	6	12	+6	
東レ・メディカル		195	187	-8	7	1	-6	
TAK(韓国)		570	595	+25	63	52	-11	
TPM(マレーシア)		352	354	+2	14	11	-3	
在東南アジア・子会社 * 1	繊維	572	608	+36	20	26	+7	
	プラスチック・ケミカル	407	420	+13	18	16	-2	
	その他	43	41	-2	2	2	-0	
	計	1,021	1,068	+47	40	45	+4	
在中国・子会社 * 2	繊維	825	936	+111	76	79	+3	
	プラスチック・ケミカル	311	414	+104	7	13	+6	
	その他	84	87	+3	▲0	▲1	-0	
	計	1,220	1,438	+218	83	91	+9	
在外・フィルム子会社 * 3	プラスチック・ケミカル	485	513	+29	25	30	+4	
	情報通信材料・機器	316	326	+10	45	40	-5	
	計	800	839	+39	70	69	-1	

* 1: ITS、ETX、ISTEM、ACTEM、CENTEX、TPJ、PFR、PAB-G、TTS、LTX、TTTM、TPM 単純合計

* 2: TFNL、TSD、TJQ、TPN、TCH、TICH、TIHK、THK-G、TPCH-G、TPPH/TPPZ、TFH/TFZ、TBMC、TMQ、TFCC 単純合計

* 3: TAK、PFR、TPA、TFE、TFH/TFZ、TAFK 単純合計

セグメント別営業利益 1Qvs2Q比較

億円

セグメント	営業利益 15年3月期1Q→ 15年3月期2Q ()内差異	増減益要因
繊維	105→122 (+17)	<ul style="list-style-type: none"> ・機能性秋冬物の縫製品の出荷が順調にスタート。 ・中国のテキスタイル子会社が堅調に推移。
プラスチック ・ケミカル	57→60 (+4)	<ul style="list-style-type: none"> ・樹脂は、自動車向けエンジニアリング・プラスチックが堅調に推移。 ・フィルムは、価格競争が継続したが、太陽電池バックシート向けや包装用途が堅調に推移。
情報通信材料 ・機器	50→54 (+4)	<ul style="list-style-type: none"> ・大型液晶パネル向け及びスマートフォン向け関連材料の出荷が増加。
炭素繊維 複合材料	46→72 (+26)	<ul style="list-style-type: none"> ・航空宇宙用途、圧縮天然ガスタンク向けをはじめとした一般産業用途は好調に推移。
環境・ エンジニアリング	▲2→23 (+25)	<ul style="list-style-type: none"> ・水処理事業は堅調に推移。 ・建設子会社は、マンションの完工物件が増加。
ライフサイエンス	5→12 (+7)	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品及びダイアライザー等の医療機器の拡販を推進。
その他	3→5 (+2)	
調整額	▲47→▲51 (-4)	
連結	215→298 (+83)	

Ⅱ. 2015年3月期連結業績見通し

2015年3月期連結業績見通し

		14年3月期 実績	15年3月期 見通し	対前年同期比 増減	前回見通し	前回見通し との差異
売上高	上期	8,538	9,480	+942 (+11.0%)	10,000	-520
	下期	9,840	11,520	+1,680 (+17.1%)	11,500	+20
	通期	18,378	21,000	+2,622 (+14.3%)	21,500	-500
営業利益	上期	443	513	+70 (+15.9%)	500	+13
	下期	610	787	+177 (+29.1%)	800	-13
	通期	1,053	1,300	+247 (+23.5%)	1,300	—
経常利益	上期	465	565	+100 (+21.4%)	470	+95
	下期	641	765	+124 (+19.3%)	780	-15
	通期	1,106	1,330	+224 (+20.2%)	1,250	+80
当期純利益	上期	294	413	+119 (+40.5%)	250	+163
	下期	302	417	+115 (+38.0%)	450	-33
	通期	596	830	+234 (+39.2%)	700	+130
1株当たり 当期純利益	上期	18.03円	25.70円			
	下期	18.56円	26.11円			
	通期	36.59円	51.81円			
1株当たり 配当金	上期	5.00円	5.00円			
	下期	5.00円	6.00円			
	通期	10.00円	11.00円			

億円

備考：為替レート的前提は、105円/US\$（10月以降）

セグメント別業績見通し (売上高／営業利益)

億円

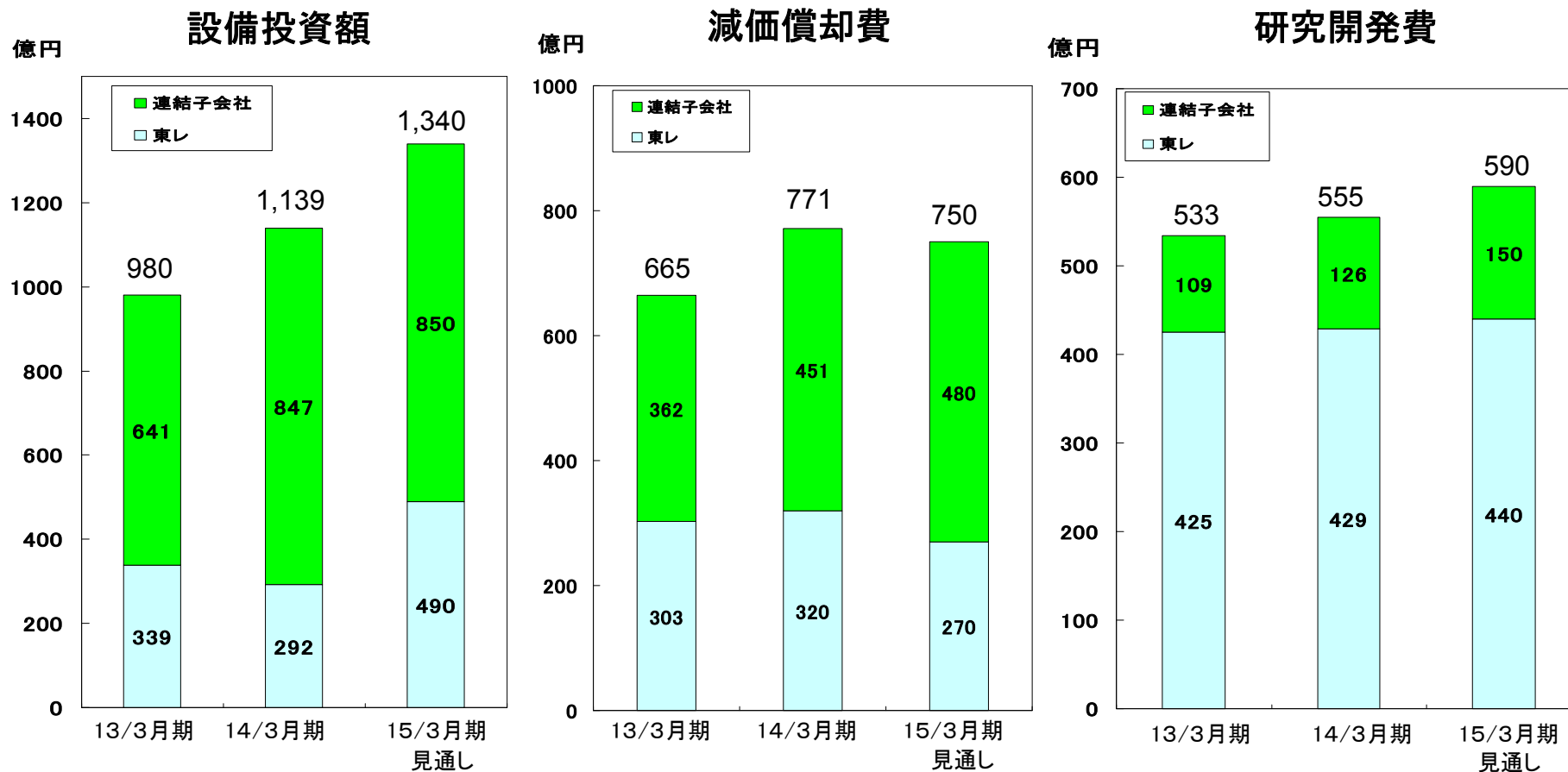
	14年3月期 実績			15年3月期 見通し			対前年同期比 増減			前回見通し との差異			
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	
売上高	繊維	3,351	4,204	7,555	3,862	4,839	8,700	+511	+634	+1,145	-39	+39	-
	プラスチック・ケミカル	2,280	2,425	4,705	2,462	2,638	5,100	+182	+213	+395	-238	-162	-400
	情報通信材料・機器	1,220	1,238	2,457	1,218	1,482	2,700	-1	+244	+243	-32	-18	-50
	炭素繊維複合材料	521	613	1,133	766	884	1,650	+245	+271	+517	-34	+84	+50
	環境・エンジニアリング	831	971	1,802	834	1,266	2,100	+3	+295	+298	-166	+66	-100
	ライフサイエンス	266	316	582	265	335	600	-1	+19	+18	-5	+5	-
	その他	69	74	143	72	78	150	+3	+4	+7	-8	+8	-
	連結	8,538	9,840	18,378	9,480	11,520	21,000	+942	+1,680	+2,622	-520	+20	-500
営業利益	繊維	242	287	529	228	322	550	-14	+35	+21	-12	+2	-10
	プラスチック・ケミカル	90	90	180	117	133	250	+27	+43	+70	+7	+3	+10
	情報通信材料・機器	108	138	246	103	167	270	-5	+29	+24	-7	-23	-30
	炭素繊維複合材料	71	98	169	118	142	260	+47	+44	+91	+18	+12	+30
	環境・エンジニアリング	6	58	64	21	74	95	+14	+17	+31	+6	-6	-
	ライフサイエンス	19	37	56	17	48	65	-2	+11	+9	-3	+3	-
	その他	7	13	20	7	13	20	+0	-0	+0	-3	+3	-
	調整額	▲ 100	▲ 112	▲ 212	▲ 98	▲ 113	▲ 210	+3	-1	+2	+8	-8	-
連結	443	610	1,053	513	787	1,300	+70	+177	+247	+13	-13	-	

セグメント別営業利益の前回見通しとの差異

億円

セグメント	通期営業利益 前回見通し→ 今回見通し ()内差異	増減益要因
繊維	560→550 (-10)	・国内衣料用途は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動や天候不順の影響を受けて、荷動きは前回想定より弱含むことを見込む。
プラスチック ・ケミカル	240→250 (+10)	・樹脂事業やフィルム事業が上期に堅調に推移し、前回見通しより強含みで推移する見通し。
情報通信材料 ・機器	300→270 (-30)	・スマートフォンやタブレット端末の生産が前回想定より弱含む見通し。
炭素繊維 複合材料	230→260 (+30)	・航空宇宙用途、一般産業用途とも需要が前回想定より強含みで推移する見通し。
環境 ・エンジニアリング	95→95 (±0)	・前回見通し通り。
ライフサイエンス	65→65 (±0)	・前回見通し通り。
その他	20→20 (±0)	・前回見通し通り。
調整額	▲210→▲210 (±0)	
連結	1,300→1,300 (±0)	

設備投資額・減価償却費・研究開発費見通し



本資料中の2015年3月期の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。